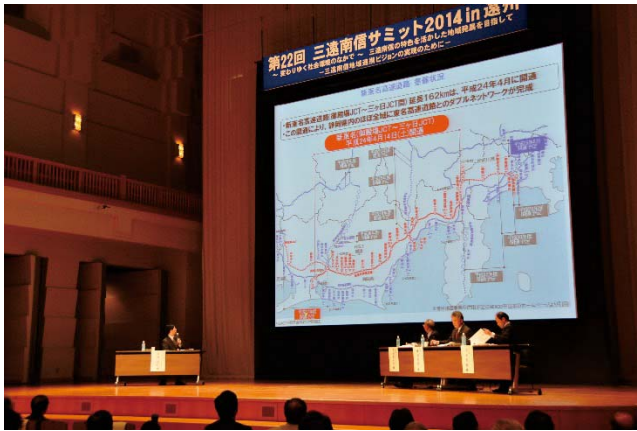


3 全体会 シンポジウム「三遠南信地域の可能性を探る」

San-En-Nanshin Summit 2014 in Ensyu



<コーディネーター>

愛知大学地域政策学部教授

三遠南信地域連携研究センター長

戸田敏行 氏

<パネリスト>

浜松商工会議所会頭 大須賀正孝 氏

新城市長 穂積亮次 氏

阿智村長 熊谷秀樹 氏

趣旨説明

○司会

この三遠南信の骨格を形成する三遠南信自動車道、それから新東名高速道路など、インフラの整備が進んできています。

そこで、遠州、東三河、そして南信州の官民の代表者がそれぞれの立場から、このインフラの整備をもとに三遠南信地域の可能性をどう見出すのか、これをお聞きするとともに、特にこの三遠南信の中央部であります中山間地域、これをどう生かしていくのか。また、今回、浜松開催でありますので、下流部の県境を越える都市圏をどう形成するのか、今後、県境地帯が目指すべき地域のありようを皆様と共有するために、今回、シンポジウムを開催いたします。

シンポジウムのコーディネーターは、愛知大学地域政策学部教授であり、三遠南信地域連携研究センターのセンター長としても活躍なさっております戸田敏行様をお願いいたします。またパネリストは、皆様から向かって左から、浜松商工会議所会頭の大須賀正孝様、新城市長の穂積亮次様、阿智村長の熊谷秀樹様をお願いいたします。それでは、よろしくをお願いいたします。

コーディネーター／

愛知大学地域政策学部教授

三遠南信地域連携研究センター長

戸田敏行 氏



皆さん、こんにちは。冒頭、鈴木会長からお話ございましたように、三遠南信のインフラが進んできました。その変化をどのように地域の中に、活かしていくのかということ、今日は議論したいと思います。三人のパネラーの方にご発言をいただきます。

論点は大きく、中山間のことと、浜松開催ということもありますので東海道の県境を越える都市圏、この2面を考えてみようということです。資料が皆さんの封筒の中に入っていると思いますが、まず簡単に状況を振り返

ってみます。道路の詳細については、この後の道路分科会ではありますが、まず広域インフラの状況ということです。リニアは随分の地域変化をもたらします。飯田は現在東京4時間が40分、名古屋2時間が20分という大変化ということになります。新東名、東名もあり、東西のインフラが進みます。大須賀会頭からもお話がございましたが、南北方向の三遠南信自動車道、これが部分的に開通してくるので、その効果を考えてみようということです。

それから、静岡と愛知の県境を跨ぐ浜松と豊橋、あるいは浜名湖といますか、この都市圏の議論があります。三遠南信ビジョンの中でも、三遠南信自動車道が核となって、新東名と東名の間のゾーンを新規にいろいろなことが起こるゾーンという位置づけをしておりました。それから三遠都市圏という県境を越える都市帯の意味づけをしていたわけです。三遠南信自動車道ですが、これは局長からお話があった部分的開通であります。特に、浜松地区へのアクセスということを考えますと、愛知県側への影響は非常に大きいわけです。穂積市長のいらっしゃる鳳来峡から引佐、ここが一挙に開けたという変化がありました。変化の影響ということになります。例えば東栄ですけれども、金紫平という住宅地の開発で、県境を越えた動きを見ながら開発していくということが起こっております。それから、これも東栄で、新城の助産所も関係していますが、医療の動きがかなり広く選ばれるようになりました。私の研究室でも今、東栄病院の患者さんがどこに行くかという調査をしておりますが、かなり県境を越えた選択が出てきています。

それから次に、観光です。開通区間を利用した新たな奥三河行きのバスツアーという動きも出てまいりました。また、さらに長野県側にも波及がありまして、新野の道の駅の利用者が増加しているということです。

また、新東名ですが、引佐から豊田までが平成27年度に開通する。これで新東名が全通します。今ある新東名でも、開通に関連していろいろな振興事業が起こっていますが、全通で、このエリア全体に起こってくるということです。物流は、後ほど大須賀会頭にお伺いしたいですが、新東名が開通することで変化が起きた。全通すれば、当然、変化は大きくなるであろうということです。

また、鳳来峡も新東名につながることで、90分圏が愛知県の都市部、それから静岡県に広がりを持つてくる。これも全通しますともっと大きな広がりを持つてくるということです。

最後に、三遠都市圏ということですが、ほとんど道路が環状につながってきました。現在は県境で切れておりますけれども、一つの都市圏という捉え方をすると百数十万都市圏が東海道の中にある。これが三遠南信自動車道で北につながっていくという見方が出てきます。

それでは早速、パネラーの方にご発言をいただきたいと思います。最初は自己紹介と兼ねながら、インフラ整備や地域への思いをご発言いただきたいと思います。

最初に、三遠南信自動車道によって今、多分一番大きく変わっているのではないかと思います。新城市長の穂積さんからお願いいたします。

パネリスト／新城市 穂積亮次市長



愛知県の新城市長、穂積と申します。よろしくお願いたしたいと思ひます。

今、戸田先生からのご説明がありましたけれども、今日は中山間地と都市部との関係性も視野に入れるということでございますので、私ども新城市は、ちょうど東三河の中間部にありますけれども、今日は北設楽郡の3町村長さんもお見えであります。新城を奥三河と一括して言っておりますが、その地域を踏まえた発言に努めたいと思ひています。

三遠南信自動車道が開通して1年半余たったわけですが、その変化は非常に劇的なものがあると思ひます。特に、北設楽郡の東栄町、豊根村については観光交流の面での大きな変化、来場者、あるいはその範囲の広がりというものが強く見られていることは既にご承知のとおりでございます。また、私ども新城市は、北設楽郡の皆さんから委託を受けて広域消防を展開しておりますけれども、その消防、救急の出動、搬送にとっても三遠南信自動車道というものの持つ効果というものは予測以上のものと受けとめております。さらに私どもの新城市は、1年半後に新東名高速道路の愛知県側が開通をしますと、その最初のインターチェンジに新城インターチェンジができ上がってまいります。さらに、浜松引佐から三ヶ日の現東名へ抜ける渡り線、その先には浜松三ヶ日・豊橋道路というものが国直轄で調査が始まっていく。さらに、新東名の新城インターと豊川インターをつなぐ一宮バイパスの事業も進展をしていくということで、私ども奥三河地域には初めて高速道路の交通網ができ上がっていくということ、しかもそれが現東名、あるいは沿岸部との関係を強化するということと、三遠南信自動車道で飯田の方へ延び、それがリニアの線と直結をしていくこと。

それからもう一つは、現257号というものがございまして、ダム建設を抱えている設楽町の設楽ダムの脇を通して今の豊田市、さら

に恵那、中津川へ抜ける道路でございます。これを今、地域間の高規格道路としてリニア新幹線の新線の岐阜県側の中間駅が、中津川と恵那のちょうど中間あたりにでき上がってまいりますので、そこへ結びつけていく。そういう意味で、リニアで始まる新しい国土軸と、それから新東名と現東名並びに現在の東海道新幹線が支えていた太平洋ベルト地帯、そしてリニアから、さらに日本海側へ抜けて行く道の整備などを考えますと、私どもの奥三河地域にとっては全く新しい時代が到来するものと思っております。もちろん人口減少、過疎化というものは大きな課題でありますけれども、それだけに日本社会全体がいかに移動の時間を短くし、効率的な社会組織をつくり上げていくのかということに全力を挙げていかなければならない時代だと思ひますので、従来、奥三河地域は東西日本の十字路と言っておりますけれども、今、私は、新城市は、奥三河地域は日本の新しいスクランブル交差点だと、このように申し上げております。いろいろな方面に自由に移動ができ、また集積が可能になる、そういう意味で大変期待をしているところですし、この三遠南信サミットが大きな力になって三遠南信自動車道の整備が着々と進んできたことに、関係の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思ひます。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

穂積市長さんからは、奥三河が東西日本のスクランブルエリアになっていくというご発言でした。実際に計算してみますと、奥三河も飯田に行ったほうがリニアで東京に近いという、数字も出ています。

それでは南信州に入りまして、熊谷村長さんお願いします。

パネリスト／阿智村 熊谷秀樹村長



南信州阿智村の熊谷でございます。どうぞ、よろしくお願いしたいと思います。

まさに中山間地の悩みだとか、また今後の期待というものをしっかり今日述べさせていただきますと思ひまして参りました。

阿智村というところ、昼神温泉郷と言ったほうが皆さん御存じかと思ひますけれども、人口が6,700人という大変小さな村でございます。しかし、観光で昼神温泉には年間70万人の皆様がお越しくださいませ、そのうち約7割が中京圏のお客様が来てくださっております。こういった関係で、南信州は他にも市町村がありますけれども、各観光地にはそういった中京圏の皆様、そしてこの三遠南信の皆様が現在のところは一般国道を通過して観光に日帰り、また宿泊で来てくださっています。特に私どもの阿智村は、皆様御存じかと思ひますけれどもハナモモという花で、結構ゴールデンウィーク中は満開になりまして、また今「星」というテーマで、星空が日本一きれいな村ということで、環境省から認定をいただきまして、現在も毎晩1,000人くらいの方にお越しただいて、にぎわっている地域でございます。また、星の関係やハナモモの関係でも年間5万人くらいの方が来てくださっております。そういう中で、観光道路ということが非常にありがたいのが三遠南信だと思ひますし、また後ほど述べさせていただきますが生活のこと、そして災害に強い三遠南信ということでお願いしたいと

思っておりますので、後ほど述べさせていただきますと思ひます。

まさに三遠南信自動車道の早期開通ということは、この中山間地域にとっても本当に長年の悲願でございますし、先ほど来から出ておりますリニア中央新幹線というものが2027年に飯田市にできます。飯田から大阪圏まで、1時間圏内で結ぶ人口が6,400万人ということでございますので、この三遠南信地域の250万人と一緒に縦軸と横軸がうまく連携して結ばいいかなと、そのように期待をしながら今日は述べさせていただきますと思ひます。どうぞ、よろしくお願いしたいと思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

三遠南信自動車道に期待する観光面、生活面、防災面という、3面からのお話がございました。これは、後ほどの中山間の課題というところで具体的にお話をいただきたいと思ひます。

それでは大須賀会頭、続いてお願いいたします。

パネリスト／浜松商工会議所

大須賀正孝会頭



浜松商工会議所の大須賀でございます。この三遠南信が今現在、浜松で特別何か効果があるかという、東栄町まで温泉に入りに行くとか、今のところはそれぐらいですが、こ

れが開通しますと長野まで行くことも、飯田まで行くこともコストが、半分になるといいます。今は、コストで言いますと名古屋へ行く料金と飯田へ行く料金では倍になります。要するに名古屋までと飯田までの料金が一緒になってしまうのです。そういう面の経済効果というものは、また素晴らしいものがありますけれども、今は未だそういう状態ではないですけれども、これが1日も早く開通すると、交通、観光に関しても、色々な面で非常にプラスになっていきます。全部開通した時には飯田から引佐を経由して三ヶ日を回って浜松へ来る場合、色々な効率の問題があります。引佐から浜松へ行く交通の場合、今は道路が狭いということもあります。道路をつくるのが静岡県は多すぎるけれども、不要な道路は無くして必要な道路は造っていくと、色々な面でプラスになる。要するにどっちが先かということ調べて物事を進めていくと非常に良くなっていくと思います。どうぞよろしくをお願いします。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございます。

大須賀会頭は物流企業を経営されていて、日本トラック協会副会長をされているということですから、物流のスペシャリストとして、この後にご発言いただけたらと思います。

それでは、続いて内容に入っていきたいと思いますが、まずは中山間の問題ですが、中山間はこういったインフラをどう活用して、これからの展開を図っていくのか。人口減少は非常に厳しい、限界集落といいますか、消滅と最近言われますけれども、そういうことの議論が今大変されている。そういう中で、このインフラをどう活用していくのかということかと思います。二つありまして、一つは働くところ、雇用につながらなければ生活を支えていくことができないということだと思いますが、雇用面、それから生活のさまざま

な活動を支えなければならないという、この2面でご発言いただきたいと思います。それでは最初に雇用につながる具体的な変化、あるいは期待ということで熊谷村長さんからお願いいたします。

阿智村 熊谷秀樹村長

それでは生活面、少子高齢化が大変な問題になっていますが、そのことは後ほどお話しさせていただくとして、やはり雇用ということでお話をさせていただきます。

まさに、この三遠南信自動車道で観光道路として、観光で働く場所があるということの具体例でございますが、実は今日も東名高速道路が集中工事ございまして、2時間位遅れて時間が掛かったしまったということもありました。私は、一般道で来たものですからよかったですけど、そのようなことも含めて、この三遠南信自動車道は災害だとか観光面でも、ぜひ位置づけは高いということをお願いをしたいと思っております。

やはり、私どもの村も観光客が大勢見えますので、そういった中で山の関係だとか、色々な自然をテーマにした観光戦略というものやっております、そこで働く方もたくさんいらっしゃって、そういった面では大変ありがたいと思っております。本当に多くの方に来ていただいているのですが、逆にこちらの中山間地域、また南信州地域から言いますと、この三遠南信を通過して海辺の方に行くのが、これも夢といいますか、非常に期待の大きいところでございまして、海に憧れるということもありまして、おいしい魚を食べたいという思いもあるとは逆に、また同時にこちらの皆さんも山に行って山の景色を見たり、今なら紅葉を見たりというような、そういったつながりがすごくあるのかなと思っております。

それで、今も浜松の会頭さんから何度もお話があつて、経済効果ということもすごくあ

ると思いますが、実は3年ほど前に経済開発協議会の皆さんで、道の駅のスタンプラリーという形でやってくださいました。10万部ほど刷っていただいて、そこで配っていただいたのですが、そこでどういった方が、どういう動向で道の駅を回るかという結果が出ていたことを私も思い出したのですが、その結果が、ほとんどが50代から70代のご夫婦が、それぞれドライブがてら訪れていただいているという結果が出たようでございます。ですから、これから観光の戦略を立てている業者の皆様だとか私どもは、そういったヒントをもとに、これから三遠南信地域の観光というものをやっていかなくはないのかなと思っております。

ある資料の中にも道の駅、例えば阿南町の新野の道の駅にも、鳳来まで三遠南信自動車道が開通した後に結構な人が入ったということも聞いておりますし、いろいろ具体的なヒントにもなると思いますので、これからはどういった経済効果があるかということを含めて、どういう戦略を立てていくかということが非常に大事なかなと思っております。

それともう1点は、飯田線がでございます。飯田線は大事な電車でございますし、観光列車ということも、うまく持っていけば良い電車の路線になると思いますので、ぜひそういったことも道路と併せていけばよろしいかなと、このように思っております。

日本全国、自然を見に行けばいいというような観光もありますが、先ほどから申しておりますように、例えばそばだけを食べてバイクで皆さんに来ていただくとか、山の景色を見たいだけで来てくださる方とか、星を見に来たいという方とか、そういった特化した観光戦略というものは非常に必要ではないかなと思っております。各市町村とも、それぞれ自分の売りのものがあると思います。ぜひ1カ所に行ったら宿泊、また日帰りでもいいので、滞在型観光というものがしっかり連携を取っ

てできるようにと、そのように思っております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

観光面での強化ということで、飯田線をもっと活用できればいいなという感じが私もいたします。午前中に、住民サミットに参加させていただいて、その中でこの観光資源といえますか、民俗芸能の資源をつないでいく提案として「まつり街道」がありました。

静岡の中日新聞には出ていたようですが、県境で新聞は変わりますからほかでは見ていないのです。住民サミットの中では、世界遺産にというようなお話もありました。そういうことも一つの切り口かなと伺いながら、感じておりました。

続いて穂積市長、お願いいたします。

新城市 穂積亮次市長

私どもからは、雇用や産業につながるという面からいきますと、新城奥三河地域では三つの切り口があろうかと思っております。

一つは、内陸工業地帯としての立地状況を、いかに高めていくかという点でございます。二つ目は、地域のほとんどを占めている森林資源の利活用の側面でございます。三つ目は、今、お話に出た観光交流の条件をいかに整備していくか、この三つがこれからの新しい新規雇用の可能性を秘めた分野でございます。3.11以降、私どもの新城市に立地をしている県の企業庁の工業団地、それからインター周辺に整備をしようとしています我々市の独自の立地計画でございますが、こういうものに対する引き合いが非常に強くなってまいりました。もちろん、リーマンショックとか、その時々を経済条件に合わせて大きく変わるわけですけれども、さらに私どもの新城インターの次の岡崎額田インターというところの近辺には、トヨタ自動車国内最大規模の、

5,000人規模の研究施設を造成するというようなこともございまして、新しい次世代の自動車産業のための裾野、研究開発、あるいは愛知県が今、力を挙げて取り組んでいる航空宇宙産業、さらには医療の産業面での開発、こういうところでの立地条件をいかに高めていくのかということ、この三遠南信並びに新東名高速の相乗効果の中で整備をしていかなければならないと思っています。

それから森林資源でございますが、これは長年来の懸案でありますけれども、今回、国土交通省の建築基準も変わり、公共建築物への木材利用が進み、さらに高層建築への木材利用もだんだん解禁の方向になっていくと思えます。そうしたときに木材の安定供給システムをつくるという点で、三遠南信が一つの大きな力を一体となって発揮できる大きな分野だと思っています。

いずれにしても、下流域の公共施設への木材利用が進んでいく状況の中で、山間地からの木材の搬出とその製品化を、いろいろな意味で高度化していく技術的な開発も含めて、三遠南信という南信州の森林資源、それから天竜地域の森林資源、奥三河の天然資源というものを一くくりとしてパッケージで資源開発ができていく、そういう拠点施設ができていけば、私は、これから中山間地の新しい雇用形態の芽ができてくるのではないかと考えています。

それから観光面におきましては、特に私も新城市ではスポーツツーリズムに力を入れておりまして、日本最大級のラリーの大会となりました新城ラリー、この11月1・2と2日間開催をいたしますけれども、それから自転車競技、来年は非常に大規模なことが計画されていますが、パワートレイルといって山岳を使ったマラソンといいますか、走行競技、ランニング競技でございますが、こういうものが次々と、我々が提案するだけではなくて民間の方々、あるいはいろいろなスポーツ団

体の皆さんがかかわってこられます。ただ自然公園法ですとかトイレの設置、駐車場の整備など、いわゆる基盤になるインフラ面の整備が課題ですけれども、これも徐々に住民の皆さんが、スポーツによって若い人たちが来るということの効果を実感し始めていく中で、地域との交流、地域の協力体制を汲み上げていけると考えています。

新城市は、観光資源として旧来は長篠・設楽原合戦を中心とする歴史、それから先ほど言った伝統芸能も含めた文化、鳳来寺山や湯谷温泉という観光資源、桜淵公園などがありましたけれども、新城市の観光は、調査をしてみますと三つの大きな特徴があって、中高年が多い、日帰り客が多い、かつリピーター客が多いということが出てきています。ここから新しいマーケットを開発していこうと思えば、やはりインフラの整備、交通の環境、そしてそれに伴うアメニティーの整備は欠かすことはできないと思えますが、これは新城奥三河地域の観光資源を考えると、一つ一つではキャパシティーが小さすぎますので、やはり連携というものが大きなテーマになると思っています。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

穂積市長からは工業、特に新東名との関連、それから森林、観光産業ということでお話をいただきました。特に森林産業ということについて、そろそろ日本でも地域が集結して取り組んでいかねばならないのではないかと印象を持たせていただきました。

次に大須賀会頭、お願いいたします。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

雇用に関しては、逆に言うと東栄町ぐらいから浜松まで来るのに通勤が可能な距離になっています。そういう面で浜松へ通勤で来るということは、上から下へ下がってくるとい

うこともありますけれども、この道路ができて浜松が特別に雇用を生み出すということでも、本当に上の交通の便が良くなって、上から下へ働きに来ていただくというような環境が整えば、雇用は生み出されるそういう状況だと思います。

観光に関しては、長野まで行く途中に良い景色が色々あります。あと浜松の観光をきちんとしなければいけないということを思っていますし、浜松も非常にいいところがあります。今、掛川から新所原まで通っている鉄道も、時間的に人などほとんど乗っていないため赤字になるのは当たり前だと思います。その沿線も観光では小国神社とか、色々な神社仏閣がありますので、駅名を変えて、今の駅名ではなく森の石松なら「石松」という駅にしたりして、色々なことを地域で考えて、ものすごく特徴のある駅にして、そこには何があるよということを駅のマップを作って知らせ、観光を少しでも広げていく。この浜松の地域の観光として、最終的には防潮堤を「市民でつくった防潮堤」ということで、そこを観光していただく。観光地としてはまだまだ色々な方法はあると思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

なかなか厳しいご意見もありましたが、もっとアイデアを盛り込んで、石松駅ができる大変おもしろいという気がいたしました。

もう一つ、浜松は工業団地の開発が随分新東名沿いになされて、中山間からの雇用、働くエリアとなっているようにも思うのですが、いかがですか。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

それは今、県も市も内陸フロンティアとして、一生懸命で工業団地をつくっています。工場の設備をするにも緑を、今まで非常に多くとらなければいけないのを工夫して少なく

てもやれるような状態にしますから、工場が出るには非常に出やすいと思います。ですけども、内陸フロンティアばかり言っていますが、では海岸場端を捨てるのかと。海岸も捨てるわけにはいかないし、そこにもまた別の防潮堤もできますし、今度は安全ですので、そういうことで内陸フロンティアだけでなく、浜松全体が、ここはどこでも安全ですよ、大丈夫ですよということで偏らずにものの方向を決めていかないといけないと思います。海岸端、浜松駅から南側の固定資産税を半分にするのであれば、内陸フロンティアを一生懸命やっても良いけれども、そうではありませんので、全体を見て偏らずに物事をしていかないと大変だと思います。

そういうことで、まず1カ所が良くて、片方だけが良いということではなく、全体のバランスを見ながら物事をしていくと非常にいい結果が出ると思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

雇用面で、どのように雇用を促進していく、働く場をつくっていくかということでご発言をいただきました。

もう1点、生活面として、中山間の生活をどのようにしていくか、どう支えていくかということが大変重要だと思いますが、熊谷村長さんいかがですか。

阿智村 熊谷秀樹村長

生活という件に関しまして、少し雇用と関係はしてくるのですが、私どもの村の例を挙げますが、現在6,700人の人口でして、簡単に言いますと生まれる子が50人で亡くなる方が100人ということで、毎年50人ずつ減ってっております。逆に、社会現象等で増減もあるものですから、出て行ってしまふ、またIターンで来る方とか、簡単に言いますとそのような数字です。これは中山間地の小

さな村の切実な問題でございまして、全国的にも問題になっている少子高齢化ということは非常に、これからの最大の課題でございませぬ。若い方にどうやったら住んでくれるのかとか、そういったこと色々話をする中で、自分たちが住んでいてよかったなと思えるところにしたいとか、働く場所ということが切実な問題になっております。

その中で、そういった魅力づくりというのは、これから三遠南信自動車道ができて、それぞれの地域で頑張っただけじゃいけないのですが、Iターンということも非常に大切だと思いますので、簡単に言いますと私どもの人口6,700人の村で毎年、約25組、50人くらいの方がIターンで来てくださっています。ほとんどが中京圏の方、そして都内の方とか、全国からも来てくださっておりますが、大体50人のうち三遠南信からは、去年のデータでいくと1人の方が来ていただいたということになっております。そういった方の多くは、こういった中山間地域で農業をやりたいために来ました。また、伝統文化を見たいから来ましたとか、林業をやりたいので来たとか、そういった目的があって来た方とか、都会の生活で定年を過ぎてリタイアされた方がお見えになるとか、そういった方々がほとんどかと思えます。

南信州地域は定住自立圏構想ということで提携を結んで、どうやったらこの地域に住んでいただけるかということも一緒に考えてながらやっておりますが、またそういった方々がどうやって来てくれるかということも私どもの、今現在で言うと役場の見せどころで、相談体制がしっかりしているかということがすごく大事だと思っております。また、その中でも、例えば別荘地もあつたりしますので、週末だけ来て田舎で暮らしてみたい、過ごしてみたいという方もいらっしゃるものですから、これからはそういった農業体験をするとか、林業の体験をするというような田

舎の生活ということでも、今、徐々に取り組んでおります。

一つ、20年前くらいから私ども阿智村に名古屋市のある区の方がずっと、二、三十人くらいで週末に来て畑を借りて耕していただいて、そして地元の方と一緒に食事をとったりして、温泉に入って帰っていただくというようなプランもつくりながらツアーもやっておりますので、そういったことを考えながら人口を増やしていきたいと思っております。また、その意味で三遠南信自動車道が開通すれば、法定速度で90分でございませぬので、いろいろ交流ができるのではないかと思っております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

今、Iターンの数を伺っていて50人ということで、そうすると生まれる数と大体同じですね。私どもの研究室でも、南信州のIターンを調査させていただいております。数が多いですね。町村によっても2割を超えているとか、2割5分ということを知りまして、随分思っていた印象と違うなという感じがします。長野県は、もともと移住したい県ナンバーワンということですけども、随分の数があるということを感じます。調査の中で、阿智村の職員さんがいいから移住したという人が何人かおられました。大変なことだと思いますが、そういう生活に密着していくところが重要になってくると思います。

続いて穂積市長もそういった面からのご発言もあると思いますが、よろしくお願ひします。

新城市 穂積亮次市長

新規就労ということについては、私どもでも農業や林業では圧倒的に新規就労者が増大をしております。地域の一番元気な農業者は、やはり外から来た若い人たちが新しく

始めたこと、そしてそれに対する受け入れ体制が整備されればされほど、その定着が進んでいくということで、このアピールはぜひとも全地域挙げてやっていきたいと思ひますし、信州はブランドの名前が大きいので、それを学びながら何とか追いついていきたいと思ひます。

それから生活の点では、最初のところで私ども広域消防をやっていると申しましたが、医療の問題について少し触れさせていただきたいと思ひます。

そろそろ医療圏という考え方の大きな修正や再編が必要になっている時代だと思ひますけれども、愛知県では東三河の北部医療圏と南部医療圏という区分けをしておりますが、人口が圧倒的に違ひまして、南部医療圏というのは豊橋、豊川を含んだ約60万強の人口の方々がおられます。私どもの北部医療圏は6万程度でございます。10分の1程度の中で医療圏というものは、その中で二次医療が自己完結するということが基本の建前でありまして、非常に厳しい状態に置かれています。そして、私どもでは基幹病院が新城市民病院と国保の東栄病院というものがございましてけれども、そのほかに診療所が数軒、そして民間の昔からの開業医の方々がおられる。ところが、この民間の開業医の方が押しなべて高齢化をしてくるという中で、遠州の佐久間や信州の阿南病院との行き来というものも非常に強うございます。県境を越えた医療システムというものをどう構築していくのか、これからの大きな課題かと思ひます。過疎地医療という言葉がありますけれども、過疎地の医療というものも、戦後の経済成長をしていく、復興・成長していくときの過疎地医療と、現代の過疎地医療ではまるで意味が変わってきていまして、昔は、衛生状態も含めていかに都会に追いついていくか、その中で医療者の皆さんは子供たちの未来を考えて、その地に骨を埋めるということに生きがいを持ちなが

ら、はだしの医者をやっておられた方もおみえと思ひますが、今の過疎地は、生活条件そのものは都会とそんなに変わらないけれども、ひとり暮らしのお年寄りがふえ、子供の数が少なくなり、地域が縮小していくということを目の前にしながら、医療者そのもののスキルアップや家族の維持をしなければならないということでございますので、ある一地点だけを捉えて、そこにいなさいというのはかなり無理が出てきていると思ひます。

そういう意味では、ある程度、広域の連携システムをつくり、そこに愛知県、静岡県、長野県の県レベルのパワーに入っただいで、一定の身分保証をしながら、ローテーションを組みながらスキルアップができるような仕組みを若手の医師に提供していかないと、地域の医療というものは維持できないと思ひます。これは、私ども新城市民病院が非常に厳しい時代を過ぎてきたときの大きな教訓であります。都市部では、病院を中心にしてまちができていくような時代ですけれども、山間地では医療機関の再編というのが、イコール集落の維持再編に直結をしていく深刻な課題でありますので、より広い視野から県境を越えた医療圏、医療の総合協力という体制が急がれるのではないかなと。そのためにも、この三遠南信自動車道の効果、さらに飯田線も含めてですけれども、その交通ネットワークの整備を、お互いに相乗効果が上がるように協力し合っしていきたいと思ひております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

冒頭の説明のときに少し私も補足させていただきましたが、東栄病院の調査をやっております、東栄病院は町営の病院、それから静岡県は浜松市の佐久間病院という市営の病院、それから南信州の阿南は長野県立病院ということになります、この医療圏も違っ

います。それが連動することができる、穂積市長がおっしゃったように一つのこれはモデルであるし、県境を越えた生活の支え方になるのではないかと思います。たまたま、3つの病院が全部飯田線の駅横につながっておりますから、駅横の医療圏ということが言えるかもしれません。それでは、続いて大須賀会頭お願いいたします。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

浜松の中は、私が今こうやって生活をしている中で、今のところは非常に生活しやすい状態だなということをつくづく思っていますけれども、浜松の駅前商店街はちょっと寂しいな、ということ是非常に感じます。

そういう中で今、スマートインターにより東名から簡単に出られるようになり、後二つ出来る予定です。

今、市内では、外周工事をしていてほとんど開通していますので、信号無しでぐるっと回る道路があれば非常に良いなと思います。浜松の中はこのようになっています。

色々な交通もそうで、新幹線は、今はひかりが一時間に一本しか停まらないし、後はこだまだけ。のぞみは1時間に十何本あっても浜松には一切停まらない。これもリニアが通ればひかりも停まると思いますけれども、それまではちょっと難しいと思います。そうしていくと、まず環境がいろいろ整備され、三遠南信自動車道も全部完成しますと長野とか浜松、愛知県も非常に便利になって良いです。それ以上に日本海まで抜けると新潟が非常に近くなる。旅行にしても産業にしても非常に良くなる。浜松の中の道路整備もしていかなないと、このままでいくと色々な面で不具合が出るかなと感じます。浜松の雇用もちょっと空洞化になりかかっていますけれども、ここでもう一回元気になって工場も頑張っていく、そういうような状態になっていくと思います。浜松はそういう面では、今から一生懸命夢を

持って進むといいと思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

以前、大須賀会頭にお目にかかったときにも、新潟から線が延びるのだと聞かせていただきました。これは、物流を実際におやりになっている立場からの見方ですね。物流の繋がり、雇用の繋がり、そういう動きができてくると、地域の生活全体を支えていくことができる。さらに浜松との近接が高まってくると効果が大きいというご指摘であったかと思えます。

以上、中山間の雇用、それから生活面ということ、広く捉えていただきました。

それでは次に、もう1点の課題であります三遠の都市圏、県境を越えて下流をどう結ぶか、ということでご発言をいただきたいと思えます。今度は大須賀会頭からお願いをしたいと思います。よろしいでしょうか、お願いします。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

私は、この三遠南信の高速道路が出来るということは、いつも思っていますが、長野の人たちも、浜松でも諏訪湖から流れてくる天竜川の水を一生懸命で飲んでいる、色々なことで長野の人と親睦がある。私は今まで本当に遠い長野だと思っていました。今度は隣の長野ということ、非常に感じまして、仕事も観光も遊びに行くにもそうで、今までは遠いから行くには大変、商売するには大変だ、今までは情報があっても遠くて無理だという話でしたが、今度は情報の面でも非常に近くなります。

くどいようですがけれども、この三遠南信道路は何を置いても1日も早く完成するべきであると。先程も、結構年数がかかる話をしていきますけれども、私もそんなに生きていませんし、本当に1日も早く完成していただかな

いと、この3県が良い結果にならないと思いますので、一生懸命ぜひ頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございます。

これが三遠の環状自動車道のような形で結ばれていくとすると、いかがでしょうか。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

今まで物流ということを考えて、実際に飯田まで直線距離は近くても、名古屋へ行って行った方が近いとか、富士を回って行った方が近いとか、そういう理由で結局どうしても、三遠南信道が外されてきました。

物流という面で三遠南信道が開通することになると、私は、企業にとってコストダウンになり、運賃が下がれば、本当に競争力でどこにでも勝てるし、この長野と浜松の間は、非常にそういう面ではものすごく大きなメリットが出ると思います。

その途中にも非常に良い町があるから、この町を上手く育てて観光地にしながら、色々な経済状況を見ながら進めていくと良いと思います。

私はこの三遠南信道路ではない新東名をなぜ先に造ったのかと。三遠南信道を先に造った方が、私は本当に経済が良くなりものすごく相乗効果があると思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございます。

力強いご発言をいただいて、ありがとうございました。それでは穂積市長、いかがでしょうか。

新城市 穂積亮次市長

私どもの新城市という、あるいは奥三河という観点から見れば、先ほど最初の絵の中に出てきた環状ということ、回るということは

非常に魅力的な構想だと思っております。先ほどスクランブル交差点というような言い方をしましたけれども、これはいかに都市間、あるいは中山間と都市間の関係性を変えていくかという課題だと思います。先ほど、森林資源の活用の問題を申し上げましたけれども、この間の東日本大震災以降の資材不足や労働力不足、それから名古屋でリニア関連の建設といいますが、開発ラッシュが続いていますので、あちらこちらで入札不調というものが公共事業関連でも起こってきています。それで、国土交通省も含めて新しい発注や入札の仕方というものの研究を始めておられると思います。従来のようなものとはまた違った、基本設計段階から施工者を決めてしまうようなやり方も含めてなっています。そうしますと、ある程度、中期的な計画性を持った公共事業の発注や施工というものがかぶさってくる。

そしてもう一つは、森林、木材の場合は国内に資源がないわけではないけれども、安定的な供給力がないということや、それから木材の性質上、建設工事の工期との関係の中でぴったりマッチングしたような発注、受給体制ができないというきらいがございました。そこから今、大きく転換をし始めようとしていて、ある程度、公共団体側が木材を山間地の側が計画的に確保し、そして下流域の木材建築、公共建築の工期に合わせて、それを原材料として支給をしていくような仕組みづくり、こういうものを私ども真剣に今、研究をしているところでありますけれども、要は何を申し上げたいかといいますと、その建設事業の問題ではなくて、自治体間の関係、あるいはさまざまな事業の契約や規制の仕方というものを、この中で大きく変えていけるような仕組みを、独創的なものをつくっていくことに要があるのではないかと思います。時間、距離が近づくだけではなくて、その中で経済を回していくことの利点ははっきりわかるよ

うな仕組みづくりを、我々だけでなく全体で知恵を絞っていかなければならないし、その知恵の絞り方の中に先ほど描いていただいた三遠都市圏というものが本当に生きてきて、さらに中山間地の経済の活性化にも刺激が与えられていくと思いますので、そういう点でいろいろ政策、あるいは行政施策のあり方の検討も SENA の場面で積極的にといたしますか、能動的にやっていただきたいなとも思っております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

都市圏は空間的なものだけではなくて、それを形づくっている仕組み、行政の仕組みとか、あるいは物流の仕組みといったものを、その中で変革させていくことができるというご指摘をいただいたと思います。

最後になりますが熊谷村長さん、お願いします。

阿智村 熊谷秀樹村長

私からは、災害に対して非常に三遠南信自動車道は重要だということを申し上げたいと思います。御存じのように御嶽山が噴火いたしました。また、南木曾町でも土砂災害等ありまして、本当にいつ何が起きるかわからないのが今の日本の現状でございます。そういう時に、この三遠南信自動車道は日本の縦軸を結ぶ道として、また災害道路としても非常に大切ではないかと、そのように思っております。もちろん、東海地震が起きた時に、新幹線がとまった時のためにリニア中央新幹線も作っているわけございまして、そういうことで東名高速道路がストップしてしまった時の縦道として、三遠南信自動車道のありがたさというものは恐らく痛感されるのではないかと、そういう観点から 1 日も早い早期開通を望みたいと思っております。

先ほど来からも出ておりますように、医療

という面からも非常に大切ですので、私どもが生活をしていて安心で安全な道路状況というのは非常に大切だと思いますし、災害も含めまして、これは塩の道とも言われた道でございますし、文化の交流の道でもあり、生活の交流の道でもあるし、そこができれば若者も交流して婚活、結婚にもつながるのではないかと、そのように思っております。その中でも、やはり最大の難所は青崩峠ですので、峠がありますと、なかなか人間も越えたくても越えられない壁もございまして、着工も始まっておりますので、ぜひ青崩峠が 1 日も早い開通をしてうまくいけばいいかと思いません。

先日も綱引きが行われた場所でもありますし、そういう中で青崩峠の 1 日も早い開通を望みたいと思います。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

時間が参りました。中山間の問題、雇用と生活、それから下流の三遠都市帯ということで、そこにも話を進めていただきました。

それでは最後に一言ずつ、では何をすべきかということ、一番これが気になっているということを熊谷村長、穂積市長、それから大須賀会頭の順で一言いただきたいと思えます。

阿智村長 熊谷秀樹村長

先ほども雇用の面、そして災害だとか生活の面でもお話をさせていただきましたが、やはり何といたしても三遠南信自動車道の起点と終点、終点と起点が結んでこそ初めて道の効果というものが発揮されると思いますので、1 日も早く開通するように、それには私どもの運動とか、住んでいる我々の機運を高めるということが非常に大切だと思いますので、このサミットの重要性というものはあるのかなと、そのように思っております。

先ほど来からも言いましたように、リニア中

央新幹線が13年後にできますので、できると縦軸の道が法定速度90分で結ばれます。浜松の駅、飯田の駅にまん中からからも30分、40分圏内で、自動車で行けるといって大きな効果はあると思いますので、そういったことから日本全国の皆さんがこの三遠南信に注目をして、そして住んでみたいと思わせたり、そして観光に行きたいと思わせたりするような地域に、今から我々が発信していくことが大事だと思いますので、これからSENAの構成も変わるということでございますので、各部会ができて具体的に動き出すということでございますので、ぜひこの第22回の今までの歴史が、うまく今後に生かしていけるような政策を打っていければと、そのように思っております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。続いて穂積市長さん、お願いします。

新城市長 穂積亮次市長

大きな人口減少時代にどう立ち向かっていくのかという日本全体、また地域全体の課題の中で、三遠南信連携という新しい課題に挑戦をしていかなければならないと思っています。その点では、先ほどどなたかお話があったかもしれませんが、自治体間の競争というのが、逆に人口の奪い合いになるような競争のやり方というのは絶対に戒めなければならず、自治体の体力の消耗に帰結するような政策というものは、お互いが損をするだけだと思います。そういう意味では、広域連携体制の中で役割の分担、そしてしっかりとした機能構築をお互いの連携の中で議論をし、資源配分をみんなで分かち合っていくような仕組みを、この広域連携体制の中で構築する必要があるということが1点と、それからもう一つは、国の施策の転換を求めていくということ。特に、東京一極集中化の是正というこ

とが言われておりますが、既に国会での議論も少し始まり、各県やブロックの市長会でもそろそろまた話題となって出ていますが、いわゆる首都移転の問題ですが、これは既に国会において全会一致で決議をされていながら、一旦宙に浮いてしまったわけですが、首都機能移転か首都移転か遷都かいろいろな選択肢はあると思いますけれども、東京オリンピックの後に、その首都移転を計画の中に織り込んでいくような大胆な転換を、国もしていただかなければ地方の努力は実らないと思います。浜名湖の上あたりに首都が来るのか、それでもいいと思いますし、内陸工業地帯、内陸の新城でも結構ですし、あるいは北関東か愛知・中部圏というものが従来の首都移転の構想でありましたけれども、これをもう一度復活させるぐらいの強い声が地方から上がっていかねばならない時代かなど。そういう意味で、三遠南信が一体となって大きな声を上げることはかなりのインパクトもあると思いますので、ぜひご検討をいただきたいと思っております。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。それでは大須賀会頭、お願いします。

浜松商工会議所 大須賀正孝会頭

私は、この三遠南信自動車道は1日も早く開通して欲しいし、開通して初めて全部の効果が出るし、3分の1ならそれだけの効果になると思います。

これに関しては長野県、愛知県、静岡県全員が一緒になって全員参加で真剣になって取り組んで一生懸命でやれば、私は、国も動くと思いますので、全員で一生懸命でいこうということが私の願いでございます。ぜひ皆さん全員参加でよろしくをお願いします。

コーディネーター／戸田敏行氏

ありがとうございました。

以上で、各パネラーの皆さんのご発言を終わりとさせていただきます。

まだ未消化の部分は当然ありますが、それはこの後の分科会にご反映をいただければと思います。

インフラが変わってくることをどのように活かしていくのかということですが、連携を、より具体的な形で行動に結びつけていくということとしますし、その核として三遠南信自動車道への期待が改めて確認できたように思います。

また、最後の首都機能バックアップの提言など、新しいご提言も出ましたので、この後の分科会にご反映いただければありがたいと思います。

どうもパネラーの皆さん、ありがとうございました。

司会

戸田様、そしてパネリストの皆様に盛大な拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、続きまして報告に移ります。